

持続可能な開発のための教育 コミュニティにおけるごみ処理の取り組み

事業名：PLANET3「ごみ処理」教材現地版の普及と活用

概要

ネパール国立学校外教育リソースセンター（National Resource Center for Non Formal Education (NRC-NFE)）は、ネパールにおける識字向上と学校外教育（NFE）を推進する機関である。ネパールNRC-NFEでは、識字教育や学校外教育プログラムに環境問題の視点を取り入れることの重要性を鑑み、日本のユネスコアジア文化センター（ACCU）と共同で、ACCUのPLANET教材を導入活用し、環境意識の向上と環境問題に関する行動変容の促進に取り組んでいる。PLANETとは、「Package Learning Materials on Environment（環境に関するパッケージ型学習教材）」の頭文字を取ったもので、シリーズ一番目のPLANET1は水質汚染、PLANET2は森林保全、PLANET3はごみ処理というように、それぞれ世界の重要な問題を扱っている。

NRC-NFEは、このうち水質汚染を取り上げたPLANET1のネパール版を作成、活用、配布してきた。また、森林保全のPLANET2はトリプバン大学、教育革新・開発研究センター（Research Centre for Educational Innovation & Development: CERID）がネパール版の作成を受け持ち、配布と活用についてはNRC-NFEが担当した。

2004年、NRC-NFEは、ごみ処理がテーマのPLANET3についても、ポスター、冊子、教員向けガイド、ビデオCDというかたち（以下参照）でネパール語版を作成した。

1. ごみ処理～わたしたちの村ならできる（ネパール語ポスター）
2. ミナの村は～ごみ処理にYES（ネパール語ビデオ）
3. ごみを処理してよりよい生活を（ネパール語冊子）
4. ファシリテーターガイドブック（ネパール語）

2005年7月から2006年1月にかけて、NRC-NFEは「PLANET3教材の普及・活用」プロジェクトを実施し、人々の意識向上と態度や行動の変容へむけた教育を通じて環境を改善するため、様々な識字教室、学校、コミュニティで、この教材を配布、活用した。

プロジェクトが実施されたのは、コミュニティ・ラーニング・センター（CLC）が識字プログラムやその他の地域開発活動をおこなっている地域で、農村部のルパンデヒ（Rupandehi）・カピルバस्तゥ（Kapilvastu）地区にある6つのCLC、半都市部のラリトプール（Lalitpur）地区にあるコカナ（Khokana）CLCとシディプール（Siddhipur）CLC、都市部のラリトプール（Lalitpur）行政区のクンベウオール（Kumbhewor）がこれにあたる。これら地域の社会経済や教育の状況は、それぞれ異なる。農村部では、半都市部や都市部に比べ、当然識字率が低く、経済状態も低い。

プロジェクトのなかでおこなわれた主な活動：

（以下青字＝写真キャプション）

1. 地域住民とのプロジェクトの目的に関する話し合い

2. 研修でPLANET3の冊子を紹介するリソース・パーソン

教室での話し合い

ファシリテーターによるコンポストづくりのデモンストレーション

シディプールの仮コンポスト場を見学する評価チーム

日常の家庭ごみからコンポスト堆肥をつくる

エコ・サニタリー・トイレ

プラスチックごみを利用した製品

再利用するプラスチックの回収

CLCや学校、他の住民・女性グループが、プログラムを媒介する効果的なしくみとなり、よい成果につながった。いくつかの特記すべき点を以下に挙げる。

- ・ ごみに関する問題は学習者の日々の生活に直結する関心事であり、このプログラムを通じて、学習者の識字能力とごみ問題に関する知識が育まれた。これは、ESDの要素を既存の識字や学校外教育プログラムに取り入れる効果的な方法だといえる。
- ・ 地域住民の、ごみ処理に関する意識が高まり、適切なごみ処理の知識やスキルが育ち、コンポスト、ごみ分別、プラスチックごみを利用した手工芸品製作など、日々の実践に役立てられた。
- ・ 地域住民がつくったコンポスト場が、野菜農場での野菜生産を高め、グループの人びとの高い満足度につながった。
- ・ 地域住民が、地区を清潔にし、ごみによる汚染から守るようになった。
- ・ 地域住民が自分たちのために設置、管理しているCLCは、識字・学校外教育をESDとともにコミュニティで実施するうえで、とても有効なしくみである。

農村部では、ほぼすべての家庭に少なくとも1匹は家畜がおり、こうした動物の排泄物がバイオガス発電の大きな原料になる。

PLANETパッケージ教材は、識字教室の補助的・補完的教材として用いられ、地域住民のごみ処理への関心を向上し、ごみから富を産む活動を盛り上げるという成果を上げてきた。このように、ごみからの収入獲得につながるごみ教育は、コミュニティの環境と経済の状況をともに向上する持続可能な開発推進の優れた実践だといえる。

(以下青字=写真キャプション)

農村部でエネルギー源となる可能性のあるバイオガスプラント
植物にコンポストを利用